

飛鳥 ASUKA KAWARABAN
かわら版

2023年
7月

盛夏号

第211号

発行所 株式会社 飛鳥 出版室

発行人 永野 正将

ADD: 〒780-0945 高知市本宮町65-6

TEL: 088-850-0588

MAIL: info@asuka-net.jp



表紙写真撮影・制作：株式会社 飛鳥

もくじ

暑中お見舞い	02
土居 瑞 先生	03
日本からの眺め①	氏原名美 04
新聞余話②	大澤重人 05
いろいろかいろ その三十七	安藝真一 06

おのころじま奮染記 29	田島征彦 07
ちらし寿司を初めて作ってみました	08
ちくんの釣り日記、6月のゆりの展示会 2023	09
広告	10
さもないこと ②	永野雅子 12



暑中お見舞い 申し上げます

日頃は格別のお引き立てを賜り
厚くお礼申し上げます。

酷暑の折柄ますますご健勝の程お祈り申し上げます。

2023年 盛夏

誠に勝手ながら弊社夏期休業は下記の通りとさせていただきます。
何卒よろしくお願い申し上げます。

8月11日(金)・12日(土)・13日(日)・14日(月)・15日(火)



株式会社 飛鳥
代表取締役 永野正将
従業員一同

土居 瑞先生



2022年4月発刊のご著書

れたのは周囲の皆様と万物の支えのおかげです。これからも命ある限り子どもたちの幸せを見守り続けていくつもりです」と、書かれています。

障害のある子どもたちの行く末を案じて、身を呈して来られたその行動力には頭が下がります。

慈母観音のような先生のお姿に、どれだけ多くの方が救われたことでしょうか。

いつもお伺いしても、ユーモアあふれる言葉と笑顔で、周囲を明るくされるご様子や、物事を前向きに捉え、常にご自分を鼓舞されるお姿に、教えていただくことばかりです。

「生涯現役」を宣言され、今でも書の手ほどきや、時には大筆で揮毫されたり、たくさんの短冊を書いてプレゼントされたり、そのパワーには圧倒されます。

今年3月、「土居瑞物語展・二十四の瞳になぞらえて」を開催されました。6日間の会期中、ずっと会場でお客様を迎え、ご挨拶される様子に周囲はハラハラしたようですが、先生は笑顔で乗り切られました。

人生100年時代と言われます。土居先生、いつまでも私達のお手本で居て下さい。

(永野・記)



昨年4月、「母の想いは果てしなく」(飛鳥出版室)という自分史を出版されました。その中に先生は、「自分がここまでやってこ

土居瑞物語展 二十四の瞳になぞらえて



日本からの眺め ①

キルギス、中央アジア、ユーラシア

氏原名美

▼今回は「棚卸し」のためお休みをいただきました。今回、首尾よく「新装開店」となるかどうか、自信はありません。看板だけは塗り替えました。品揃えが十分ではないので、荷解きしていなかった在庫も並べてみることにしました。機会があれば徐々に新しくしていきたいと考えています。

昔あるところに イヌ…とオオカミが

北海道大学でソ連中央アジア史を研究しているかつての教え子が近況報告とともに「北大祭」のニュースを届けてくれた。毎年六月初旬に学生主体で開催される北大祭は、もう六十五回目、今も一年生が模擬店を出すようだ。その昔、我がクラスの出店はフレンチトースト・カフェだったが、調理担当も販売担当もつまみ食いに忙しく、結局採算が取れたかどうか記憶にない。
ユーラシア・スラブ研究センターの一般公開は延べ五百人が来場する例年にない盛況ぶりだったが、

今年「キリル文字の書き方」コーナーでお茶を濁して、ロシア文化の紹介は見送られたのだそう。ウクライナからの訪問者数名に配慮したせいらしい。日本が誇る研究拠点でさえ触らぬ神に祟りなしを決め込んでいて、「スラブよ、お前もか？」と言いたくなるが、北大祭事務局が小泉悠氏講演会を企画するなど、学生たちの問題意識は健全だったとのこと。

土曜と日曜は下の孫の昼寝の相手だ。昼食を終え布団に転がって、「さあお話タイム」となるころ、孫はアニメ視聴を希望する。お気に入りの一つは、宿無しになった老犬が助けてくれた老狼に恩返しをするという、ウクライナ民話をベースにしたソビエト時代の作品だ。テンポがあつて面白おかしく、しかも哀愁漂う内容で、子供はセリフ抜きで楽しみ、大人はセリフで楽しむ。

年老いて番犬の役目を果たせなくなった犬が家を追い出される。森をさまよい、ひもじくなって狩りの経験がないものだから、ネズミにもウサギにもバカにされ、いつそ死んでしまおうと思う。そこへ現れたのは、かつて自分がさ

んざ追ひ回した狼だった。犬の窮状に狼は、「さあ見る」と言うどころか、「まあ色々あったが、宮仕えつてのはそんなものさ。奉公の拳句、歳とお役御免とは哀れなものだね。しかし、そのままじゃ気の毒だ」と、犬を勇猛果敢な忠犬に仕立てる一芝居を打つ。おかげで犬は主人に感謝され、以前より大事にしてもらえるようになった。

しばらく安穩に暮らしていたが、ある時ふと思ひ出したのは、同じく年老いて、思うように獲物を仕留められなくなっているに違いない「あの昔馴染」のこと。犬は、主人の家が婚禮の宴で盛り上がったのを幸いに、こっそり狼を招き入れ御馳走を振る舞うことにした。たらふく食べてほろ酔いの狼が自慢の喉を開かせた途端、家中大騒ぎとなるが、犬が素早く狼を追い払うふりをして、一件落着。

狼は犬に礼を言うと、千鳥足で帰っていく。一瞬足を止め振り返り、「何かあったら、また来いよ」と犬に声をかけ、闇の彼方に去っていく。狼を見送る犬の後ろ姿と降りしきる雪。お互い「また」があるかどうかわからない。

劇中間こえる民謡といい、『隊長ブリーバ』を思わせる髪型といい、衣装も民家もウクライナ

一色。セリフだけはロシア語で、しかも、話すのは犬と狼だけ。恩讐を越えて互いの老いを労り合うかのようだ。狼のセリフは、気の利いた決まり文句の古典となった。会話に挟むと場が和む。ノルウェー語やウクライナ語、イタリア語やスペイン語は吹き替え版が用意されている。

孫は毎回「もつと」とせがんでから渋々眠りにつく。我々一九五〇年代、六〇年代の子供たちがデイズニーのアニメや映画と同じくらいソ連国営スタジオの作品に触れていたなら、ユーラシアの、三十年前まではロシア語が橋渡しをしていた国々とも、今ほどの距離は感じないでいられたように思う。

氏原 名美

うじはら・なみ

ピシケク国立大学東洋国際関係学部特任教授。越知町出身。北海道大学卒。



ピシケク国立大学
東洋国際関係学部
日本語日本文学講座

ピシケク市内(キルギス日本語センター)

逃げているのは誰？



「総理、逃げるのですか」

広島サミット終了後の議長国記者会見を打ち切って、岸田文雄首相が立ち去ろうとしたときです。大手ではない、デジタルメディアの男性記者からそんな言葉が飛び出しました。さすがの首相も、再び演壇に向かわざるを得ませんでした。

国際社会に「成果」を発信するべく、徹底的に管理・演出されたサミットに、ほころびが見えた瞬間です。ネット上では、誰がこんな無礼な質問をしたのかと、「犯人」探しで盛り上がりました。確かに品のいい言葉ではありません。しかし、非難される筋合いの取材姿勢でしょうか。非難されるべきは、質問を断ち切る首相側です。

しかも、この会見にはとんだ茶番劇がありました。「ラジオ・フランス」の西村カリン記者がツ

イッターで暴露したのです。数日前に外務省が質問するメディアを選び、質問内容まで聞き取っており、自分が質問する機会はゼロだった、と。それなのに司会者は「質問のある方は手を挙げてください」と促していたのです。こんな恥知らずな「会見」をする政権には「丁寧な説明」などと二度と言わないでほしい。

それ以上に怒りを覚えるのは、それを唯々諾々と受け入れた記者クラブ側の姿勢です。時間の制約があったにせよ、会見を開く以上、全ての記者に質問をする権利を保証するべきです。それが、ひいては国民が知る権利を守ることになりません。国民は知らなくても良い、お上が決めたことに従えばいいというのなら、独裁政権と同じです。

首相など要人に対する記者の言葉遣いにも、最近、首を傾げざるを得ません。

「質問に応じてくださり、ありがとうございます」
「お答えいただけませんでしょうか」

礼儀は必要ですが、この低姿勢ぶりはなんでしょうか。記者は国民

の代わりに質問をしていることを忘れてはいませんか。権力者側は恩恵ではなく、義務として、自らの施策や方針を説明する責務を負っているのです。

最近、新聞の部数は激減しています。年間に数十万部。毎年、地方紙一つがなくなるほどの異常事態です。このペースで減り続けると、新聞自体が10年そこらで消えてしまいかねません。存続の危機にありながら、こんな腰巾着のような取材をして、権力者側の視点に立った記事を掲載しているのです。読者の目にどう映るのでしょうか。

批判姿勢は最近、ネット上のやり玉にされがちですが、権力者の施策の至らないところを批判して、施策を修正・中止させるのは、マスコミの真骨頂です。国会でも、批判を忘れた、提案型野党というのが出てきて、開戦間近の大政翼賛政治を見るかのようなです。当時の新聞も、右にならえと開戦を支持し戦争をあり、部数をぐっと増やしました。いま、経営危機にあえぐ新聞は、七十数年前と同じ轍を踏むのでしょうか。

批判精神を忘れて、権力者に迎合する記者には、こんな言葉を投げかけたい。

「記者、逃げるのですか」

逃げない記者がいれば、その記者を応援し、書いた記事を読んでほしい。無料のネットではなく、お金を払って買った新聞で。



サミットの記者会見要旨を伝える紙面



大澤 重人
おおざわ しげと
渡来入歴史館(大津市)
専門員、元毎日新聞高
知支局長

近著に『咲くやむくげの花―朝鮮少女の想い継いで―(富山房インターナショナル刊)

いろは いろは いろは

その三十七

折りたたみの季節

安藝眞一

季節がめくられて六月になる。雨、梅雨に入るといふ。

花はない。あじさいの道とか、寺とか、何がしかの公園とかのあじさいの開いたしらせは来るが思いをこめる花ではない。

桜がない。

当たり前前の六月なれば、誰も桜の事などは口にはしない。

それでも花がない。桜がないと思う事しきりで、老人性の呆気ではないかと思うが、この月になっても、まだ桜を追っかけている。

どこにも花見に行かなかつた。それでも、あの霞のような雲のような桜花の群れが意識の中で、上になり、下になり揺れ動く気配に酔っている。昼も夜でもある。

たった二ヶ月前には確かに桜の咲く山が続いていた。二ヶ月前の四月は連日のテレビが、日本列島の桜を報じて、戦争のことも、コロナのことも吹き飛ばして、この紅の花の雲に揺れていたのに、一ヶ月もそこらで、桜の散る風と共に誰も話すことも酔う事も止めてしまった不思議。

散れば消えるものだから忘れるのは仕方ないとは思ふものの、咲くまでの心待ちの三月下旬、開花宣言とやらの興奮の四月、日本中を駆けめぐる桜名所の画像の連発と人々の華やき。それがピタリと鳴りをひそめた花散る夕の沈黙。思い出せば四十日前後のうたた寝のような春の終わりである。

振り返って、桜満開の報らせが駆け抜けた日々を思い出す。意外に早く四月の上旬の二週間ばかりで列島の騒ぎは終わり、花が風に散った。どこにも行かなかつた。毎年の様に思う福島の瀧桜に今年も会えなかつた。一度ゆっくり、あの樹の枝なりを見渡して、出来れば夜明けの朝日の中で撮影してみたいと思ひ乍らもう二十年は過ぎていく。岐阜

の淡墨うすすみの桜にも同じ想いである。この巨木は朝にはなく夕陽のかげりでゆっくりと撮影が出来ないかと思いついて、これも二十年そのままに果たしていない。

桜が散ると春が終わる。現金な人間は花を落とした樹を振り返りもせず、やがて移る季節を野放図に待っている。春が終わっても、まだ見ぬ桜のあれこれを追って、年を重ねているばかりの自分に、ふと思ひ違ひを見つかることがある。

花、散れば終りし。思ひつづけていたのは、何やら怪しく、元の桜樹は振り返る人の眼がなくて元元場所につけていたのではないかという事。季節は移っても、残る樹の枝は、ゆっくりと折りたたまれて、やがて来る次の春の日まで季節の風の閉じ目に、息をしているのが、季節のほんとうのありようだとも思ひ返す。年が明けて二月の末にもなると、人々は俄かに桜のひらくを待ち騒ぎ出すが、季節に折りたたまれた樹は、遙か手前の五月、六月に息をこらして、次の年の花芽を育てているのではないか。散ると共に季節が飛ぶように去るので

はなく、ゆっくり黙って夏にも春を、秋にも春の芽を育て、冬には目前に迫る春の足音に胸とどろかせて、花芽をそろえにかかると。そう思ひにいたれば、散り終えた桜も愛おしく、夏にも秋にも樹に手をふれて、折りたたまれた季節の裏の声を聞き取ることに力と思ひを抱くべきではなからうかと思う。

そう思えば、梅雨空に花を思い炎天の夏に樹を見上げるならわしが、秋へと冬へと続き、初春の二週間程の開花待ちを通り越して六ヶ月も、半年も、さらに八ヶ月もの季節を花咲く春を待つ楽しみが続くことと思えば花散る事など何でもないことに思えてくる。

歳をとつた所為か、そう考えるようになつた。時の流れが速いと恨むのでなく、幾度か過ぎた、いくつもの春が、何重にも折りたたまれて、いつの日か、ゆっくりと開き重なって目の前にあらわれるのを静かに待っている。

安藝 眞一

あき・しんいち／高知市

おのころじま ふんせんき

29. 大手術 (2)

田島征彦

救急車で運ばれて、大手術をした病院に、一ヶ月入院した後、地元の病院に移り、12月28日、やっとわが家に帰ってきました。ところが、生まれて初めて乗った救急車へ3ヶ月も経たない内に、またも乗ることになったのです。

歳が明けると、すぐ9日に誕生日がきて、83歳になりました。その翌日のことです。夕食後、歯を磨いていたら、右肩のあたりから、神経が鈍く感じて、歯ブラシが口の外で動いているのです。右手が勝手に動いていると、思う間もなく、身体が崩れ落ちました。偶然に通るかかったひで子が、驚いて救急車を呼

んでくれました。意識が失くなつていくほくを、3人の救急隊員がタンカで運んでいるのが分かります。車が走り始めると、一緒に乗ったひで子が、いろいろ質問を受けているのが遠くで聞こえます。その内、意識が少

なっていました。救急隊員も、きよとんとしているほくの顔を見て、「お宅へ帰りましょう。よくあることです」家へ帰り、いつものように眠り、朝は何事もなかったように眼を醒ました。



しずつ戻ってきました。車は止まっています、あたりは暗闇です。隊員の一人が、いろんな場所へ電話しているのですが、ほくを受け入れてくれる病院がないようです。そのうち、ほくの意識がはっきりして、普段と同じに

くものは飲んでいませんでしたから二ヶ月も薬を飲み続けていたのが原因だと判断すると、病院でもらった薬と診療所からもらった薬もすべて捨ててしまいました。せいせいいした気持ちでいる時、診療所から、女性の声

で電話です。医者には男だったので、受け付けのオバサンの声のようでもありました。「薬はちゃんと飲んでいますか?」
「すべて原因は薬です。全部捨てました」
それを聞いたオバサンは、怒りをあらわにして、
「もう、これから診療所へはきついではいけません」
ついに公立の診療所からも追放されてしまいました。



田島 征彦
たじま・ゆきひこ
染色家・絵本作家

大阪府堺市出身。少年時代を高知県で過ごす。京都市立美術大学染織図案科専攻科修了。一九七八年『じごくのそうべえ』で第一回絵本にっぽん賞。二〇一五年『ふしぎなともだち』で第二十回日本絵本大賞。沖繩の子どもたちを主人公にした「やんばるの少年」の次には沖繩戦を題材に、子どもたちに「戦争のことを、平和の大切さを伝える絵本」なきむしせいとくが二〇二三年度の講談社絵本賞を受賞した。

※「おのころじま」は淡路島の古代のよび名

飛鳥出版室発行・松崎淳子先生の
「伝えたい！昭和の食卓 高知の味」から

松崎先生のレシピで ちらし寿司を初めて 作ってみました！

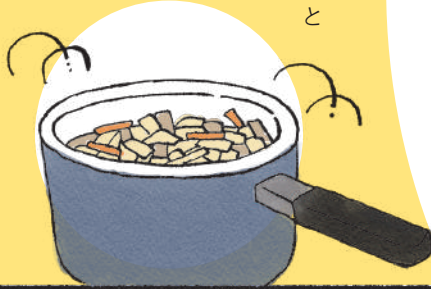
制作部・田村



まずはすし飯作り。
合わせ酢にちりめんじゃこと
生姜が入っている所が
高知っぽく、レシピを
読んだだけで
美味しそうです。



次にすし飯に混ぜる
具を作ります。
かんぴょう・しいたけ・
人參を煮詰めます。



すし飯を作り終えたら、
次は上に飾る具材作りです。
さやえんどう・錦糸卵は
問題なく進みましたが、
ここからえびとの戦いが
始まります。
開きえびを作りたい！
と思いき、いざ茹でてみると



お寿司の
ようなイメージ

えびがくるまって
しまいました…。



泣く泣く
作り直します。



ここは現代の力を使い、
ネットでやり方を探して
えびに竹串を刺し、その後
茹でます。



茹でた後におなかを開き
今度は成功です。



具とすし飯を混ぜ、
仕上げに飾りの
具を散らすと、
ちらし寿司の
完成です！

※開きえびにしました
が松崎先生のレシピ
とは違います。気にな
る方は本をお読み
ください。



松崎先生が40年かけて作り
あげたレシピは、仕事帰りに
早く、楽に作れる料理
ばかり作っていて見失いがち
な基本や料理をすることの
楽しさを改めて教えてくれ
ました。
「伝えたい！昭和の食卓
高知の味」は絶賛発売中です。
是非、一度お手にとって
「高知の味」を料理してみ
てください！

ちーくんの釣り日記

目指せ!! 100 魚種の旅



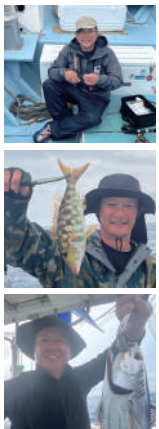
YouTube チャンネル
あすか日記
ぜひ、ご視聴ください!
チャンネル登録をお願いします!

第12話

沖縄遠征

この釣り日記を始める前の2019年、釣り仲間に誘われていただき沖縄遠征に行くも、天候不良で釣りができず、沖縄観光で終わっただ事があるんですが、今回リベンジという事で改めて沖縄釣行を決行することができました!

出発前の天気予報では曇天模様に加え波風も心配な状況で、前回の悪夢が脳裏をよぎりましたが、日頃の行いのお陰なのか何とか天気ももってくれ、出航することができました!



第13話

マテ貝掘り

去るゴールデンウィーク、我が家の恒例となっている「マテ貝掘り」に香川県に行ってきました!



ちょうど時期ということもあり貝掘りの人でごった返してましたが、採れるわ採れるわで子どもたちも大満足な一日でした!

今回の達成魚種

- アオリイカ (レッドミンナー)
- アカハタ
- アザハタ
- アカヤガラ
- アマミフエキ
- バラハタ
- カツオ
- コウイカ
- フェエキダイ
- メガネハギ
- ホオアカクチビ

トータル **43** 魚種

中村農園 6月のゆりの展示会2023に行ってきました!



今年もロゴデザインからパンフレット制作等のお仕事をさせていただき、いつもお世話になっている中村農園様の「6月のゆりの展示会」に行ってきました。飛鳥かわら版の表紙も会場で撮影しました。



新型コロナウイルスの影響で中止されていた一般公開も4年ぶりに再開。会場はハウス内には、およそ500品種、1万本ほどのユリが並び大きい花から小さい花、シングルや今、品種改良の中心となっている八重、色もカラフルなものがたくさんあります。ハウス内はユリのいい香りが充満して気分も最高です。

ステージイベントではインターフローラワールドカップ2023日本代表・小松弘典さんによる「ユリを使ったフラワーアレンジメント教室」が行われ、大盛り上がりでした! 来年も楽しみにしています!



その ホームページ うちで作りましょうか？



簡単操作！
ブラウザ上で
そのまま編集！

**レスポンス
対応デザイン**
続々登場

WHAT!?

**ブログ
メールフォーム
EC ショップも
簡単設定！**



はここがスゴイ！

ホームページの知識は必要なし！初心者でも安心の簡単操作♪



**ダイレクト
編集**



**コンテンツ
パーツ**



**豊富な
デザイン**



**Google
ツール**



<https://a-tool.jp>



動画でCheck!
※動画はWEBサイト
でもご覧いただけます。

私たち、株式会社飛鳥は
SDGs (持続可能な開発目標) に
取り組んでいます。

実質再生可能なエネルギー100%の電力を
確保し、環境への配慮を実施しています。



従来はオフセット印刷が主流だった白版印刷。一定の部数以上でなければ利用出来ないものでした。

クリアも白も、手軽にPODで!

Print on Demand

名刺・DM・フライヤー・パンフレット・POP・カード・封筒など…個人や仕事にかかわらず
クリアやホワイトをデザインに取り入れて Original / Premium / Stylish / Variation
「より魅力的なアイテム」制作、試してみませんか?



クリア印刷



ホワイト印刷

ニスやラミネートのような光沢感のクリアトナー。デザインの上での光沢コーティングや、コピーできないという特徴から偽造抑止に活用など、使用方法はアイデアの数だけ広がります!

黒や濃色のメディアに白でデザインや文字を印刷することで特別感のある印刷物に! また、特殊メディアとの相性バツグン! アルミ蒸着紙などのメタリック調を活かしつつデザインすることも可能です。

必要な時に必要な数だけ
という「**おトク**」

必要なアイテムを必要な数だけ。
足りなくなればリピートもカンタン。
【小ロット/低コスト/短納期】を
可能にするPOD活用のご提案です。



RICOH Pro C7200SHT

多彩な用紙で、多彩な表現を。 普通紙やコート紙のほか、凹凸紙などに対応。立体POP、リーフレット、メニューなど、多彩な活用はアイデア次第! ※紙によって印刷相性があります。事前にご相談ください。

幅広い用紙サイズ 100×139mm~330.2×487.7mmまで対応。さらに長尺印刷(片面時)は、最大1,260mmまで対応し、A4三つ折りのパンフレットや店頭バナー等も制作可能です。

中綴じ製本 小ロット(1冊~)からOK!表紙と本文の紙替なども対応可能です。
※最大20枚(80p)程度まで(用紙種類、紙厚などのご使用条件によって異なる場合があります)

封筒への印刷OK! フルカラー印刷のオリジナル封筒など、小ロットから印刷できます。
※ゼロハン窓等の熱で溶ける仕様のものはプリント不可です。

小ロット
OK!

短納期
OK!

お問い合わせ・お見積り・ご注文は……………株式会社 飛鳥まで

お気軽にご相談ください

七、もたない、こと 2

個人情報

永野 雅子

夫のいとこに当たる95歳の女性が高齢者施設に入っ
て久しい。

コロナ禍の時はもちろん
尋ねるわけにはいかないま
ま、「お元気だろうか」と
案じていた。

最近になって消息を聞こ
うと、施設に電話をするこ
と、「個人情報ですからお答
えできません」と言う。

「夫のいとこです。高齢
なので、せめてお元気で居
られるかだけでも教えて頂
けませんか？」と尋ねると、
「こちらに居るかどうか
もお教えできません」

「以前にそちらに何って
会っているのです。ただ消
息を聞きたいだけです。何
か証明が要りますか？」

と、語尾が上がる。

「少しお待ち下さい」

しばらく待って、

「規則ですので、教える
わけにいきません。ただ、
その方のお世話をしている
人からこの番号に電話をし
てもらいます」

もうッ！こちらの名前も
名乗り、住所も言って、そ
れでも「個人情報ですから」
の一点張り。

やがて、「元気にしてい
ます」という電話が入った
けれど、何か、もやもやが
残る。

前に、田舎からやっとの
思いでお見舞いに来た近所
のご老人が、病院の受付で
「入院をしているかも教
えられません」

と言われてすごすごと帰っ
た話を聞いたけれど、少し
おかしくないですか？

たしかに個人情報流出と
かよくニュースになるけれ
ど、それと同レベルの問題

だろうか。

先日も、

「個人情報保護のため、
暗証番号を変更してくださ
い」

との知らせに、言われるま
ま、英字と数字を組んだも
のに変えた。

さて、買い物しよう
とIDとやらを打ち込むと
「ログインできません」と
来る。何度やってもだめ。
もう、イヤッ！

スマホを自由

自在に使う若者
を見ていると、

なんと
なく取

り残さ
れるよ
うな気

持ちになるのは私だけ？



永野 雅子

ながの・まさこ

株式会社 飛鳥

常務取締役

著書「わが家の太郎」

夏恒例の親睦会を 3年振りに開催しました！

7月8日(土)、飛鳥恒例の「夏
のビアガーデンで親睦会！」が
3年振りに「八金」という居酒
屋で行われました。この日は朝
から社員総出で蒸し暑い中、大
掃除をしたこともあって冷たい
ビールが大いに進み、久々の飲
み会ということもあり、美味し
い料理とお酒で楽しい時間を過
ぎしました。

また今回ビンゴ大会の代りに
プレゼントの福引きをして、皆で
見せ合うなど盛り上がりました。
今年の後半に向けて大いに英
気を養いました！

(川田)



「飛鳥かわら版」は、あらゆる世代の自分史・個人誌作りを応援しています。

飛鳥かわら版 第211号【盛夏号】 飛鳥出版室

●発行所：株式会社 飛鳥 ●発行人 永野 正将
●住所：〒780-0945 高知市本宮町65-6 ●電話：088-850-0588
●メール：info@asuka-net.jp ●ホームページ：https://www.asuka-net.jp